試聴会・訪問記収載

大阪ハイエンドオーディオショウ 2025 報告(2025.11.7)(HP 収載)

大阪ハイエンドオーディオショウ 2025 は、11 月 7 日から 9 日まで心斎橋ハートンホテルで開催されました。以下は大阪ハイエンドオーディオショウ 2025 の報告です。

http://ohas.info/

1．デモの概要

主催：大阪ハイエンドオーディオショウ実行委員会

協賛：各オーディオ・音楽専門誌

協力：関西エリアオーディオ店

開催日：2024 年 11 月 7 日(金)　AM10:30〜PM19:00

11 月 8 日(土)　AM10:30〜PM19:00

11 月 9 日(日)　AM10:30〜PM17:00

会場：大阪・ハートンホテル心斎橋別館

出展社：22 社

■出展社一覧

アキュフェーズ　アークジョイア　アクシス　イースタンサウンドファクトリー

アイレックス　エレクトリ　フューレンコーディネート

ハーマンインターナショナル　KEF Japan　リンジャパン　ラックスマン

メース　メルコシンクレッツ　ナスペック　ノア　オルトフォン

PDN　サエクコマース　SOULNOTE　ステラ　トライオード　ゼファン

２．デモの試聴経過

以上の出展社の中から、自宅で使用中のものの参考にするために興味を引いたデモの試聴を兼ねて、出展各社のスタッフに質問をしてみることにしました。なお、クラシックの再生は非常に少なく、その場合は音質の判断ができませんでした。

以下に各社のデモと得られた情報を紹介します。

イースタンサウンドファクトリー

REVOX が名機 77 を『B77MKIII』として復刻させており、他にも REVOX の高音質ベルトドライブ型ターンテーブル『T-700』、BWV のピーカーシステム『H-3』『H-2』『H-1』、Audiolab のパワーアンプ『9000P』、FBD の同軸型 2 ウェイシステム『W-01』『W-02』のデモが予定されていました。

さらに REVOX から発売されるグレン・グールド『Bach-Italian Concerto』とマルタ・アルゲリッチ『CHOPIN THE LEGENDARY 1965 RECORDING』、ジャクリーヌ・デュプレ『ELGAR』のテープ実演が予定されていましたが、ちょうどグールドのイタリア協奏曲がかかっていました。これぞテープサウンドということで、アナログや CD と違った味わいがありました。ヨーロッパではテープサウンドも復活の兆しがあり、これからもテープの発売予定があるとのことでした。

エレクトリ

下記のようなラインアップのデモが予定されていました。

スピーカー：“MAGICO S2”、“REVIVAL AUDIO ATALANTE7 EVO”、

アンプ：PASS, McIntosh, HEGEL

デジタルソース：Metronome、McIntosh、Master Fidelity、
アナログソース：EMT、STST
ちょうど EMT927 のプレイヤーからの再生がありましたが、スピーカーやアンプを含めたトータルの印象でアナログの良さを感じられませんでした。

リンジャパン
KLIMAX SOLO 500、LP12 の 2 つのアップグレードアイテムであるメカニクスを収める外枠（Plinth）と BEDROK、サブシャーシ KEEL SE のデモが予定されていました。現在カルーセルを使用していますが、その後の進展はないかと聞いたところ、現在でも最上のものであるということでした。試聴の方はクラシックではありませんでした。

メース

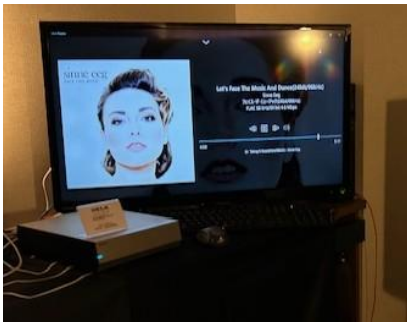
NEW ハーベス HL-COMPACT7ES3-XD2、KISO ACOUSTIC HB-X1・HB-N1 を HEGEL H600 でドライブし、アナログは、MYSONICLAB SIGNATURE DIAMOND、オルトフォン SPU GTX-S、MC-X20、AS-212RmPASS XP-27、GLANZ ”刀”、Air Force V Premium によるラインナップのデモが予定されていました。

MYSONICLAB SIGNATURE GOLD と GLANZ MH-9Bt を使用していますし、ハーベスのスピーカーは以前から関心を持ってしましたので、EMI レーベルのミケランジェリのモーツアルトのピアノ協奏曲の美音が耳になじみました。

メルコシンクレッツ

もっぱら最新のスイッチングハブの S100/2 の説明を聞いてきました。現在使用中のバッファロの業務用を改造したものに比べて、オーディオ仕様でグレードも向上しているとのことでした。

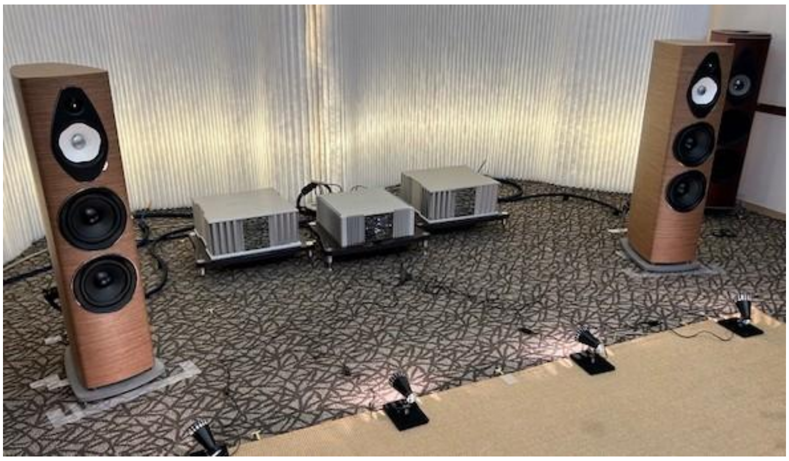
ネットワークスイッチ S1 とミュージックライブラリーN1 との組み合わせで、音源の画像を出しながら女性ボーカルがかかっていましたので、クラシックに切り替えて、ラトル／ベルリンフィルのベートーベンの第 9 の 192KHzPCM とケルテス／ウィーンフィルのドボルザークの新世界の 11.2MHzDSD を聴きましたが、最新のネットワークオーディオのクオリティを出していました。



ノア

アークジョイアとの共同出展で、”Sonus faber”の弩級フラッグシップ”Suprema”の技術を継承した新製品”Amati Supreme”、”Concertino”の新世代となる、”Concertino G4”などのデモが行われていました。

ハイエンドのアナログシステムでムターのカルメンファンタジーがかかっていましたが、ムターのヴィブラートの聴いた艶のある音にはなっていませんでした。



SOULNOTE

最新モデル A-2ver.2、光カートリッジ対応 E-2ver.2 によるアナログの試聴とディジタルや 3 シリーズによるネットワーク再生も行うとのことでした。

Thorens の DD プレイヤーからの再生で光カートリッジ対応 E-2ver.2 による MA レコードの無伴奏チェロを聴きましたが、解像度の良さはあるものの湿度感は不足していました。以下、スタッフとの質疑応答です。

Q1：RIAA 以外の盤の再生はしないのか？

A1：RIAA 以外の盤を持ってきていない。（光カートリッジのイコライジングは RIAA のみ）

Q2：E-2 ver.2 では RIAA 以外の盤でのイコライジングカーブの検証はやっているのか？

A2：やっていない。そのような盤自体を持ち合わせていない。ハードの機能として付与しており、使いこなしはユーザーまかせということ。

Q3：E-2 に関するホームページでは、古い盤は逆位相のものが多いと記載されているが、検証はやっているのか？

A3：ホームページの記載内容と根拠は承知していない。

トライオード

「JUNONE 845SE」、「EVOLUTION PRE」「EVOLUTION MUSASHI」、「TRZ-P300W」、「TRS-34」など最新モデルのデモが予定されていました。

トライオード扱いの Western の 300B を購入し、快調である旨を伝えましたが、現在は扱いが完実電機に移行したとのことでした。現在は、300B は中国球を扱っているとのことです。

３．まとめ

印象に残ったのは、メースのハーベスの HL-COMPACT7ES3-XD2 とイースタンサウンドファクトリーの REVOX の『B77MKIII』でした。

メース以外のアナログの再生もありましたが、ヴァイオリンやチェロの生音とは距離

感がありました。
導入候補としては、メルコシンクレッツの S100/2 の現行機との置き換えです。
SOULNOTE の E-2ver.2 は、イコライザーカーブや位相反転機能を有しながら、実際の盤で検証していないことは、シマムセン第 3 回真空管アナログ試聴会における ESOTERIC の Grandioso E1 と同様した。検証する盤自体を保有していないということでした。
日本のオーディオメーカーは、ハードは作るが、ソフトの知識やソフトに寄り添うという意欲には乏しいと感じました。

以上

注：
下記サイトに大阪ハイエンドオーディオショウ 2025 の記事が掲載されています。
https://www.phileweb.com/news/audio/202511/26/27140.html